

### 地域通貨を活用した住民による地域貢献

#### 地域通貨を媒介とした地域ケアに関する研究 その2

地域通貨 高齢者 共助  
生活支援 地域貢献 離島

正会員 鈴木 健二\*1  
同 川島龍太郎\*2  
同 友清 貴和\*3

#### 3-3「提供側」参加者の概要

前報に引き続き、「提供型」参加者についての考察を行う。「提供型」の参加者は60代に多く見られるが(表2)、その理由としては、会社に勤めている人はさんさんに参加する時間が無い事、60歳前後に定年退職してまだ身体的にも元気な内に地域への恩返しをしたいと考える参加者が多い事が挙げられる。参加者の中には、退職後に趣味が無く困っていたが、さんさんに参加してからは仕事をしてあげる事が趣味代わりになっている人もおり、さんさんを媒介とした活動は、身体的にも元気な高齢者が地域に労力を還元する契機となり、活動自体が高齢者にとっての生き甲斐となる可能性があると考えられる。

また「提供型」の参加者には様々な役職に就いている人も多く、例えばHEさんはさんさん運営委員会会長や地区

会長だけでなく、他のボランティア活動やサークルにも参加している。提供型の参加者は元々ボランティア志向が強く、地域から重要視されている存在である事が推測される。

#### 3-4「提供型」参加者の生活展開

図5に「提供型」参加者HEさんの事例を示す。HEさんは以前から地区会長や民生委員として近所の方に様々な手助けを行っていた。現在ではさんさんの仕事のため、自宅周辺以外でも新たな付き合いが展開されている。また、他のコーディネーターと毎朝、道端で世間話をする仲になる等、役職を超えた関係に発展しているケースも見られる。さんさんが地区を超えた付き合いの広がりをも可能とし、新たな人間関係を築く契機として機能している事がわかる。このような地区を超えた付き合いの広がりや、車や原付等の移動手段を有している男性参加者に数多く見られた。

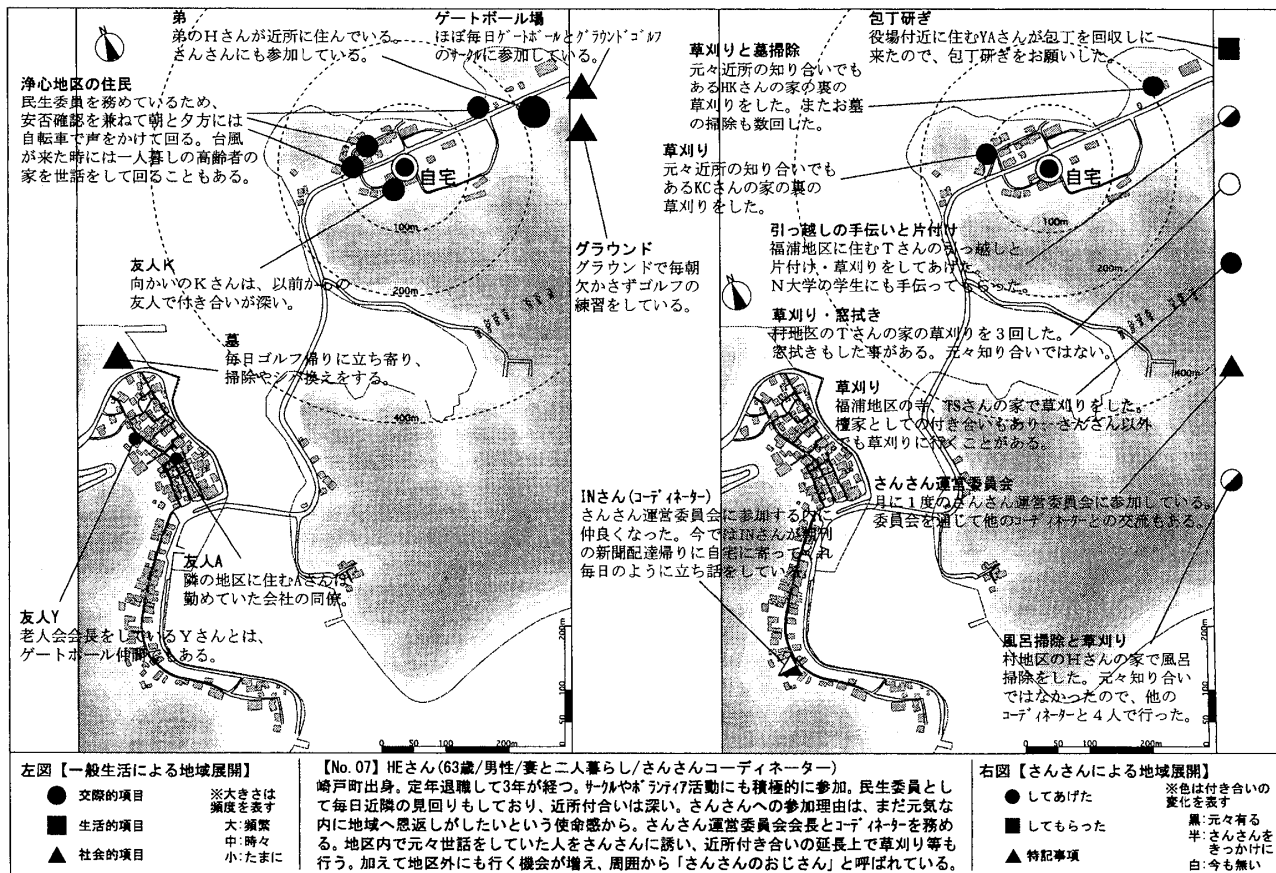
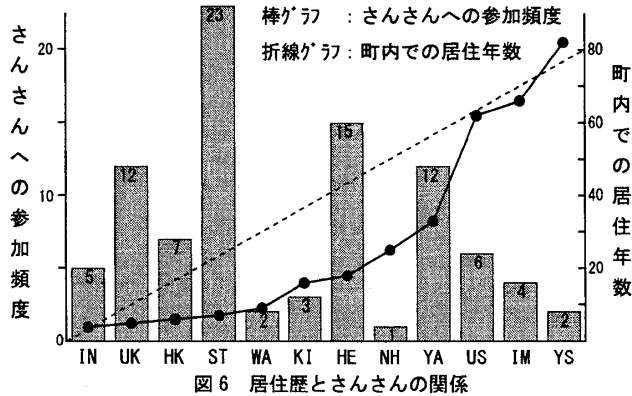


図5 「提供型」参加者HEさんの生活展開とさんさんの利用状況

一方さんさん開始前から草刈りや台風時の世話をしてもらっていた参加者については、さんさんを利用する際にも、以前からお世話になっている人を信頼して仕事を依頼しているケースが多く見られた。従来の顔見知り関係・信頼関係が重要な役割を果たしていると考えられる。

### 3-5 居住歴とさんさんの関係

地域との関わりと聞くと一般的に居住歴の長い人がその長さに比例して担うものだと思われ易い。しかしさんさんでは居住歴が短い人でも積極的に活躍し(図6)、町



内出身者と同様の働きを為している。図7の提供型STさんは、崎戸町での居住歴は僅か7年で日常的な近隣との付き合いは少ないものの、さんさんに関わる事で付き合いが近隣に展開している。このように長く崎戸町を離れていた人や崎戸町外から移り住んで来た人にとっては、地域通貨のやりとりが新しい交際展開の契機となっている。

### 4 まとめ

以上、本研究では地域通貨の利用実態を明らかにする事で、高齢者に対する生活支援の有効性に加えて、地域住民による地域貢献という効果を見出す事が出来た。

その一方で問題として、コーディネーターが本来の役割である仕事の仲介をせずに、自分自身で仕事をしてしまう傾向も明らかとなった。地域内のボランティアを最大限に活用するためにも、サービスの担い手をより多くの参加者に拡げていく取り組みが必要になると考えられる。また若い世代の参加者が不足しており、数年後のキーパーソンが見当たらない事も問題であろう。これらの問題を長期的視点で解決していく事が今後の課題だと思われる。

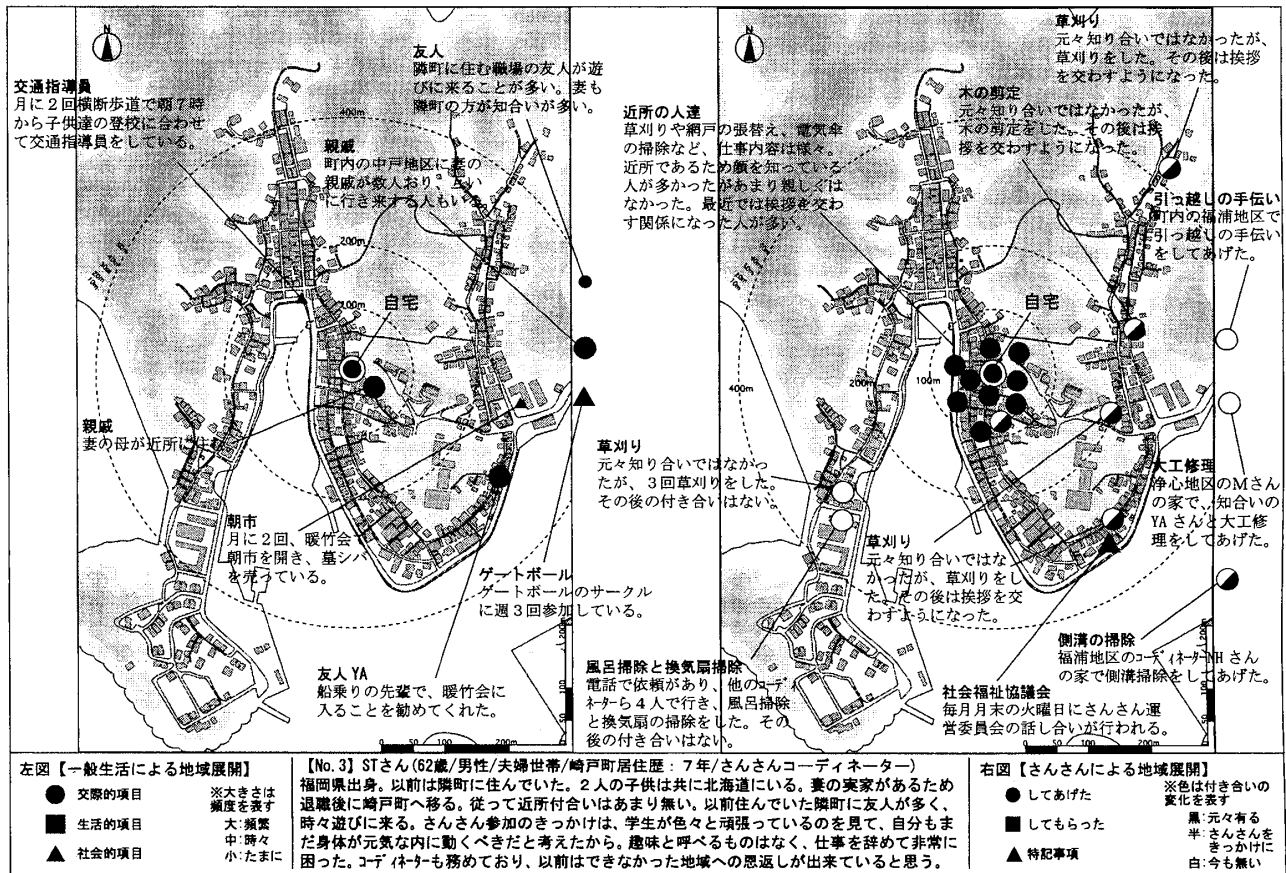


図7 「提供型」参加者STさんの生活展開とさんさんの利用状況

\*1 鹿児島大学工学部建築学科 助手・工博  
\*2 NTT ファシリティーズ  
\*3 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

Research Assoc., Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng  
NTT Facilities, Inc.  
Professor, Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng